

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2590100869		
法人名	株式会社サンガジャパン		
事業所名	かたた駅前グループホーム		
所在地	滋賀県大津市本堅田6丁目31-29		
自己評価作成日	令和4年7月10日	評価結果市町村受理日	令和4年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://sanga-japan.jp/product/katata/">https://sanga-japan.jp/product/katata/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和4年8月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>* ご入居様の笑顔を決やさぬよう、一人一人のニーズに合わせた支援を心がけています。</li> <li>* 毎月のイベントを工夫し、ご入居様自らが準備に参加され、楽しんでいただけるようにしております。</li> <li>* それぞれのユニットのご入居者様が自由に行きできるように合同レクを心がけています。</li> <li>* 記録を大切に考え、スタッフの情報共有が徹底できるよう、いろいろ工夫しております。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>駅や大型スーパーに近い市街地に「かたた駅前グループホーム」がある。ホームの玄関前には、フードバンクボックスが置かれ、地域の方が自由に協力出来る様になっていて自然な形での交流がある。玄関を入ると、季節の花やグリーンが飾られており、季節感を感じてもらいたいとの心使いを感じる。コロナ禍で外出の自粛が続いているが、人ごみを避けてのドライブで気分転換をしたり、ホーム内で模擬店を企画し、利用者職員共同で手作りの模擬店(コンビニ)を開催して楽しんだ。今後も利用者の要望に応じて、笑顔を引き出すイベントを実施したいと考えている。職員は、暮らしの中に笑顔と自立支援を意識した支援に努めている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議がコロナ禍で直接の集まりは実施できていないが、書面を通して定期的に自治会に報告をさせていただいている。	事業所独自の目標をつくり、笑顔のある暮らしと自立支援を意識した支援に努めている。行事計画等のミーティングで理念の共有と振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前の訪問ボランティアなどは、コロナ禍で実施できず、施設の周りの清掃を月2回、子供見守り活動を週1回、フードバンク等行っている。	コロナ禍で直接の交流は自粛しているが、地域の清掃活動や下校時の見守りに立ったり、窓から「お帰り…」の声かけ手を振るなどを継続している。事業所の玄関内にフードバンクボックスが設置され地域の方が自由に協力できる様になっている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前認知症カフェを予定したものの、コロナ禍で中止となり、その後できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面でご家族からのご意見ご要望をいただき、それをできる限りサービス改善につなげるようにしている。	あらかじめ、書面や電話で本人、家族の意見要望を伺い職員間で検討しサービス向上に活かしている。運営推進会議録は、家族、関係機関へ報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の事業所施設整備室からくるメールで市の方針を確認し、必要に応じて連絡、報告を実施している。	FAXや電話、書面で連絡を取り合い報告や相談等を行っており協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に関しては、定期的に委員会を開き、リストを通してスタッフの状況を把握するように努めている。 ユニットの入口は解放している。	年2回、全職員(常勤、非常勤)に研修の機会があり、アンケートを提出して身体拘束をしないケアについての再確認を行っている。外出をされたい利用者には、無理に引き止めることをせず、庭で話をして落ち着かれるまで対応することを共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を身体拘束防止委員会と共に開催し、スタッフの意識が向上するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修や話し合いの場がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、丁寧に説明を行い、同意を得ている。(契約時間約2時間)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議(書面)でご家族の意見をいただくようになっている。 ご利用者のアンケートを実施して意見をいただけるようになっている。	家族等には書面や面会時、電話等で意見や要望を伺っている。利用者には、日常生活に関しての意見や要望等をアンケートや聞き取りで行い職員間で共有し反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を実施している。 職員からの意見はあまり多くない。 会社全体で職員満足度調査を毎年行っている。	施設長・管理者との個別面談が定期的であり、何でも話すことが出来る。日々のミーティングや会議でも意見や提案は出しやすく一緒に考え、作り上げていくスタンスであると職員より聞き取った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理に努めているが、人員不足は否めない状況。 業務に関する想いを伝えたり、共有するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修制度があり、職員のスキルアップを考えてはいるが、人員不足のため研修が受けられないのが現状		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業事業所が集まるサービス向上委員会を毎月実施している。 職員の親睦会はオンラインで実施しているが、頻度は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			ch			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様自身のお気持ちに寄り添ったケアができるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見要望を真摯に聞き、良き関係性を築けるよう務めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者のその時、その状態に応じた対応を提案し、ご家族の意向に沿って進めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活としての考えを進めて、少しずつ実践に移しているが、浸透には時間がかかる。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族を含めた、環境全体を生活ととらえ、心掛けているが、浸透には時間がかかる。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか実施できていない。	コロナ禍で直接の交流は自粛しているが、なじみの方と電話で話す、アルバムを送る等の支援をしている。家族の協力で法事や通院途中に以前住んでいた自宅前を通っていたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベントや集団レクを通して進めているが、被害妄想などで関係が難しくなっているご利用者に関しては、間に入り、環境を工夫し、他のご利用者に気付かれぬよう、自然な雰囲気を作り支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで退去された方に関しては、ご家族やご本人の必要に応じてのみ実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り実施している。施設で「夢の実現」の取り組みを行っており、ご利用者のご希望に沿ったイベントを計画実施している。	利用者へ「何かしたい・」と問いかけ、言葉や表情から一人ひとりの思いを把握、コロナ禍で外出が困難なため、模擬店を事業所内で行い楽しんでもらった経緯がある。また以前からの生活習慣や自分の時間を大事にした支援に努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室の家具等は馴染みの家具を使っていたりしている。生活環境の掘り下げはまだできていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の把握は注意している。朝礼や申し送りでの注意ポイントを職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を割り当て、ご利用者個々の意向やニーズに対応できるよう努めている。それを介護計画に反映できるよう心掛けている。	居室担当者がモニタリングをしケアマネジャーが集約して介護計画に反映させている。本人・家族等には、電話や面会時に思いや、意見を聴いて介護計画を作成している。	モニタリング、再アセスメントも含めて本人・家族・職員・ケアマネがカンファレンスすることで新たな課題が見えてくると思います。検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートで情報共有し、毎月のカンファレンスで、意見を出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	若年性の方にはリハビリを行い、職業支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者それぞれがかかりつけ医を持っており、連携に努めている。	びわこ大橋病院の訪問診療を利用されている方が多いが個人的に家族同行で通院されている方もいる。生活情報・診療情報は関係機関で共有され健康管理がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	直接雇用の看護師を配置し、ご利用者の体調の変化等は、専門的な意見を看護師より発信し、共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報のやり取りに努めている。病院やご家族とも情報共有し、ご本人の早い回復と病院との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針は立てており、入居時にも説明している。まだ重度化が進んだ事例はない。生前指示書は用意されているが、話し合いはまだ行われていない。	事業所の職員体制や、医療体制について整っていないため検討中である。	重度化した場合の不安を軽減するためにも、本人・家族に事業所で出来得るケアについて早い段階で話し合いが持てればいいですね。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修など行っているが、実践力は今後養っていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(火災)を行なっているが水害などの訓練は行われていない。	定期的な避難訓練が他事業所と協力して行われている。非常用食料、備品の点検も定期的にされている。	災害対策については、様々な災害を想定し運営推進会議で継続的に意見交換されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシー保護に配慮した個別対応を心掛けている。 言葉遣いにも注意している。	年間の研修プログラムの中に組み込まれ、全職員が受講、報告書を提出し、適切な対応を実践している。一人一人の人格や生活歴等特性に応じたコミュニケーションを意識した言葉かけが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的なご利用者アンケートを通して希望を聞いたり、入浴など個人対応の介助の場で希望を聞き、対応するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の希望を尊重したケアを心掛けている。 希望による部屋食や各生活時間の変更等柔軟に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みや希望を尊重し、着替えなど行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みはできるだけ対応するようにしている。 食器拭きや料理の盛り付け等もご利用者の状況により行っている。	炊飯のみキッチンで行い、業者委託の食事であるが、おやつは手作りしており、利用者もトッピングを行っている。誕生会や季節の行事の時には手作りや出前を取るなどして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、朝礼時に特記があれば、報告、情報共有し注意するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕の口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	能力に応じて、出来るだけトイレでの排泄を促している。	排泄パターンを把握し、その方に応じたタイミングで声かけを行い、職員は情報を共有し、失敗を減らす支援を行っている。必要に応じてパットを適切に使用し装着の仕方を工夫して自立の継続を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘時は主治医の指示に従い、便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴でゆっくり入っていただけるよう心掛けている。	介助者と利用者が1対1でゆったり話せる機会であり、皆さん楽しみにされている。そこでの聞き取りがケアに生かされることもある。自立度に応じ、外での見守介助のみの方から、リフト使用の介助まで対応できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも疲れたら臥床時間を取れるようにしている。夜間も個々人の習慣やペースを大切にしてい入床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員で共有できるようにしている。薬の変更時は申し送りするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事、気分転換は個々人の希望に沿ってできるよう心掛けている。役割はイベント準備などその方の適正に合わせて持っていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で実施できていない。	近隣の散歩や、玄関前のベンチに座り、外気に触れる機会を積極的に作り、コロナ禍で制限のある中、花見や紅葉狩りなどは車の中から楽しんだ。家族の大事な行事などには家族協力のもと外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの依頼があった場合には、お金を持っていていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用できる方は、携帯電話を所持していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保つよう心掛けている。 季節を感じていただけるように、毎月装飾など工夫するようにしている。	家族や職員の差し入れの花が飾られたり、利用者が作った毎月季節の装飾物を壁に張り出している。利用者同士が安心して過ごせるよう、ソファや椅子の配置の見直しが随時行われ、感染症対策の徹底した清潔な空間の中で、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やエントランスに椅子を置いたり、リビングの片すみにソファを置き、一人、または複数で自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室環境はご本人又はご家族と話し合っ て整備している。家から使い慣れたもの を持参していただいたり、介護に必要な ものは施設で用意する等話し合っている。	ベッドと洗面台の備品がある居室では、冷蔵庫、テレビ、たんすなどその方にとって必要なものが自由に持ち込まれ、創作物を飾るなどその人らしさがうかがえる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の「できる」を生かした生活の提供を心掛けている。転倒リスクを考え居室のレイアウトや介助方法も考えている。		

## 目標達成計画

作成日：令和4年10月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化の指針はたてているが、入居時にも説明している。重度化が進んだ事例はない。	終末期にむけた、ご本人の家族の希望を傾聴する。	常に、医療連携(訪問診療、訪問看護)等、話し合いの場を設ける。	3ヶ月
2	26	介護計画とモニタリングに関して、コロナ禍の為、意見交換などの場が設けれていない。	他種職連携により意見交換	出来るだけ御家族様、ご本人、職員をまじえてのカンファレンスを持ってプラン作成する。	2ヶ月
3	35	定期的な非難訓練(火災)を行っているが水害などの訓練は行っていない。	災害 避難訓練に、火災、地震、水害の訓練を行う。	水害に関しての訓練は2階に非難する事を周知する。随時報告していく。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印 )
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )